

企画・制作 / 岐阜新聞社営業局



家庭園芸を支える 縁の下の力持ち 花苗・野菜苗



土川園芸
土川 洋功さん



岐阜県の豊かな自然で育まれる農産物と、情熱を持って農業に挑む生産者を伝える「ぎふの農業人」シリーズ30回目は、揖斐郡揖斐川町上野で花や野菜の苗を育てる土川園芸の土川洋功さんを紹介。日常の生活に彩りを与えてくれる家庭園芸、苗を選びに直売所へ訪れる地域の人々の声を汲み取りながら、多品種少量生産で苗生産を続ける土川さんの、これまでの歩みと地域への思いについてうかがいました。

地域に根差した少量生産で、 理想の農業スタイルを実現。

研修先で農業の 魅力を再発見 親元に戻り就農を決意

マリゴールドやベチユニア、ジニアにナデシコなどの花苗、トマト、ナス、ピーマンなどの野菜苗。土川さんの農園で育てる苗は花50種以上、野菜40種以上で、合わせて100種類近くにも及びます。県内の種苗販売業者から購入した種苗を、一般家庭で栽培できるように大きめに育て、主に揖斐郡にあるJAの直売所へ出荷しています。種類にもよりますが、土川さんの育て方は、花ではおおよそ3ヶ月、その間水や肥料の量を調整しながら「手に取った人が長く楽しめるように」と丈夫な苗に育て上げていきます。



多種類の苗が育つ土川さんのビニールハウス

父が園芸した土川園芸子どものころから忙しく働く両親を見て「正直継ぐつもりはなかった」という土川さんですが、周囲のすすめもあって地元の大垣農業高校（現在の大垣養老高校）へ進学。野菜や水稲の栽培を学び、卒業後は県農業大学校で園芸を学びました。その中で授業の一環として3カ月間、農家研修へ行くことに。訪れたのは、中津川市にある種苗農家でした。「その師匠が、楽しんで農業をする人でね、休みもしっかりと取りつつ新しいこと、やりたいことにもチャレンジする。こんなふうにはできないなら、やりたくないなあ、と思って」。その後さらに2年間研修を受けたら、親元へ戻って就農しました。

大量生産の末に 感じた限界 地域に根差す少量生産へ

土川さんが就農した当時の土川園芸はシクラメンなどの鉢花をメインに栽培し、市場やホームセンターに出荷していました。大量生産が求められていた時期で、土川園芸でもビニールハウスを増設、最大で年間5万鉢近くを生産していました。休みはほとんどなく、作業が深夜にまで及ぶことも。それでも花の単価は下がっていく一方、体力も取れなくなり、状況が続きませんでした。「俺がやりたかったのは、こういうことじゃない」。初心に立ち返った土川さんは、思い切って生産量を大幅に減らそうと考えました。

メインの売り先である地域の直売所に変えて、手作業だった部分を一部機械化するなど、作業量を減らし、適度な休みも設けました。また、これまで出荷先の直売所からは、全体の売上高の報告のみでしたが、どの品種がいくつ売れたのかといった詳細なデータを報告してもらい、分析して栽培品種や出荷数を調整するようになりました。

花苗や野菜苗を作り出したのもこのころ。休みになるとスーパーへ行き、野菜売り場で人気の野菜を見て回ったり、知らない品種を見つけてその苗を仕入れてみる。自然と栽培品種は増え、現在の数になりました。「いろいろ試してみよう、自分に合ったものを決めたときに志した理想のスタイルに徐々に近づいていきました」。

直接届く声に「感動」 JA、周辺農家と ともに前進

自分で商品を持って行く直売所では、お客さんと直接会い、声



地元の直売所にはニーズに合わせた苗を並べる

大きな方向転換に始めは反対していたという両親ですが、今も現役で土川さんを支えています。土川さんは「必要に駆られていた時期も無駄じゃない。初めての品種でも大体の流れはわかるし、肥料や水の量を最適化して生育のパラメータを減らす作業などはあのころの経験が生かされている」と語ります。

直売所を運営するJAいび川とのつながりも深まりました。女性部が行う寄せ植え講座の講師や、2023年度からは青年部の委員長として地域の農業の課題解決に取り組んでいます。また直売所の売り場面積をもっと広げたいと考え「周辺農家も一緒になつて盛り上げていきたい。地域の人には地域の農産物を買って農家を応援してもらいたい」と呼びかけています。



JAいび川 営農経済担当 常務理事 後藤 正光さん

土川さんは地域の苗農家として地元ファンがつくほど活躍されていますが、JAいび川の青年部長としても、約50人の若手農家を束ねる立場も担っていらっしゃいます。また、JA女性部の寄せ植え講習会では、講師として協力していただけるなど、とても助かっています。

青年部では、定期的な意見交換会を開催し、JAいび川の役員に若手農家が直接、JA運営について意見を言える場を設けたり、昨今の資材高騰による厳しい経済状況の中、国の補助金やJAの農機具助成金の活用について情報共有したりするなど、地元農家さんにとって身近で必要な存在であるために、相談しやすい関係性を築いています。

本広告に関するご意見・ご感想をお聞かせください

「揖斐の蜜干し芋」と「揖斐ばうむ(抹茶味)」の詰め合わせをプレゼント

「揖斐の蜜干し芋」は、素材から加工までを100%自社生産した揖斐郡産サツマイモ「べにはるか」の干し芋。サツマイモ本来の甘さを堪能できます。「揖斐ばうむ」は、岐阜県産の小麦や揖斐郡産の米を使ったパウチクレープの抹茶味。生地に美濃いび茶が練り込まれており、口に入れた瞬間に抹茶の風味が広がります。揖斐川の自然に育まれた美味をお楽しみください。

①郵便番号・住所 ②氏名 ③年齢 ④性別 ⑤電話番号 ⑥紙面に関するご意見を明記して下記の方法でお申し込みください。
【はがき】〒500-8577 (住所不要) 岐阜新聞社 営業局「ぎふの農業人」係
※個人情報保護法に基づき、当選者の発表は、賞品の発送(翌月予定)をもってさせていただきます。

抽選で
5名様に
プレゼント
5/17(金) 必着



耕そう、大地と地域の未来を。

ぎふの農業人の過去の記事はこちらから ▶



花も野菜も
丈夫な苗があるから育つ。
生産者のこだわりが詰まった逸品を届けたい
地域の一員として地域の未来を見守るJA